

大川景子監督作品

異境の中の故郷

作家 リービ英雄 52年ぶりの台中再訪



旅に出かけて、旅先で異言語に身を晒し、旅の後に日本語を書く
漂白する越境者は、異境の風景を、日本語ではなく、模範郷(モーファンシャン)と北京語で呼んだ

西 洋出身者として初の日本語
作家・リービ英雄が、半世紀
ぶりに少年時代のひとときを過
ごした台湾・台中を訪れる。この
2度とない旅に、詩人の管啓次郎
と作家の温又柔、映像作家の大川
景子が同行し、ドキュメンタリー
作品『異境の中の故郷 作家リーブ
英雄 五十二年ぶりの台中再訪』
が完成した。

米国生まれのリービ英雄は日本
語で創作する作家だ。リービは
少年時代を台湾・台中で送った。
家では、英語をはじめ、外交官の
父を訪ねてくる国民党の老将軍
や使用人の中国語が飛び交い、高
い塀の外では、台湾(閩南)語が響
くという環境だった。以前の家主
が残した古い雑誌に印刷された
文字や、レコードから流れだす歌
声をとおして、日本語と触れ合つ
こともあった。その家は「模範郷」
と呼ばれる旧日本人街にあった。
日本人が台湾を去って、まだ数年。
土にリービ少年は包まれていた。
両親の別れによって「模範郷」を
離れたとき、彼は十一歳だった。
台湾の東海大学シンポジウムに
中を訪れる 것을決意한다. 그
후, 그는 단순한 추억의 여행이 아
니라, 미래에 대한 글을 써야 하는
리비의 「현재」의 뒤에 숨어 있는
「과거」를, 타이중의 향기를 찾
으러 나온 것이다. 「과거」에
대한 글을 써야 하는 그의 「일본어」
를 예상하는 것이다.

日時 2014年2月3日(月) 18:30~21:00
会場 法政大学 市ヶ谷キャンパスBT0300教室

* 参加無料、事前連絡不要
(法政大学学部生・大学院生に限らず、どなたでもご参加いただけます)

- 1 ドキュメンタリー映画上映
『異境の中の故郷—作家リービ英雄 52年ぶりの台中再訪—』(52分)
- 2 座談会 リービ英雄・温又柔・大川景子